村屋坐彌冨都比賣神社

むらやにますみふつひめじんじゃ

大神神社の妃神を祀る
縁結びの神

村屋神社の森（森屋の森）にはイチイガシが群生し、この照葉樹林の樹そうは、植物学上極めて貴重なもので、県の天然記念物にも指定されています。

※航空写真は奈良新聞社「日本史の源流」から引用しております。

主祭神 三穂津姫命

公式ウェブサイト

●交通のご案内

【電車の場合】
近鉄橿原線 田原本駅から東へ約二・五キロタクシーで約一〇分
JR桜井線 巻向駅又は柳本駅から西へ約二キロ徒歩約三〇分

【お車の場合】
西名阪自動車道 郡山・天理・法隆寺ICから約二〇分
大阪市内から約一時間

【所在地】
〒六三六-〇二三四
奈良県磯城郡田原本町蔵堂四二六番地（社務所は四二四番地）
電話／ファックス 〇七四四（三二）三三〇八

境内地図

略記

主祭神

主神　三穂津姫命
配　大物主命

境内摂社

村屋神社

祭神　経津主命
武甕槌命
天児屋根命
比咲大神
大伴健持大連
大伴室屋大連

服部神社

祭神　天之御中主命
天之御鉾命

物部神社

別名　市杵嶋姫神社

祭神　御炊屋姫命
宇麻志摩遅命
配　物部守屋大連

久須須美神社

別名　恵比須神社

祭神　天之久之比命
事代主命

由緒

延喜式内大社で、旧県社、大神神社の別宮※。

日本書記によると、主神 三穂津姫命は、高皇産霊命の姫神で大物主命が国譲りをされたとき、その功に報いるためと大物主命の二心のないようにという願いから、自分の娘を贈られたという神話に出てくる神である。

この故事から縁結びの神、商売繁盛の神、内助の功の神として信仰され、後に大物主命も合祀されるようになってからは、大神神社の別宮と称せられるようになる。

「延喜式」神名帳 式下郡に村屋坐彌冨都比賣神社・村屋神社・久須須美神社・服部神社が記載されており、天武天皇元年壬申の乱のとき、村屋神が神主にのりうつり「わが杜の中を敵が来る。社の中つ道を防げ」と大海人皇子方の大伴連吹負将軍に軍備に対する助言をした。この功績によって神社として初めて位階を天皇から賜ったと日本書紀に記されている。その後も何度か位を賜り現在正一位森屋大明神の呼称が残っている。

壬申の乱の功を後世に伝えるために、このとき功のあった三神を回る御渡が、例祭に行われていた。三神とは村屋神を祭る村屋神社、事代主命を祀る久須須美神社（恵比須神社）、生雷神を祀る森市神社（境外摂社）である。

天正の頃（一五八〇年頃）戦火に遇い社地を奪われ財源がなくなり、一時神事祭祀は中絶していたが、慶長四年（一五九九年）五二代守屋政重が氏子の代表者たち（森講）と語らい現在の規模に縮小して再興を果たした。

※厳密には異なりますが、古来より氏子崇敬者から親しみを込めていわれてきました

例大祭本宮 代々神楽奉納（10月第4日曜日14時）

年中行事

元　旦　**歳旦祭**　新年を寿ぐ一年最初のお祭り。

二月　三日　**節分祭**　厄除・開運招福・病気回復を祈る。

二月十一日　**祈年祭**　一年の五穀豊穣を祈る。

御田祭　御田植神事を行い五穀豊穣を祈る。

六月三十日　**夏越し大祓い式**　半年間の罪穢れを祓い残りの半年を無事を祈念する儀式。茅の輪くぐりなどを行う。

七　月　七　日　**弁天七夕祭（夏祭り）**　疫病・災厄などを祓う祭礼。

十月第三土曜日　**秋祭り（宵宮祭）**　巫女による神楽祓いなどを行う。

宵宮の翌日　**秋祭り（本宮祭）**　神社における一年で最大の祭礼。巫女が平神楽、榊の舞、扇の舞、剣の舞、矛の舞、湯立て神事など、代々伝えられてきた神楽を奉納する。

十一月第四日曜日　**新嘗祭**　今年の秋の収穫を氏神様にご報告する祭礼。

十二月二十三日　**三夜祭**　久須須美神社の祭礼。

歳旦祭の三宝飾り

夏越し大祓い式（6月30日16時）

御田祭り（2月11日14時頃）

例大祭宵宮の神楽祓（10月第3土曜日夜）